

第10回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優秀賞

実践報告部門

アベノミクスで学ぶ日本経済

神奈川県・神奈川県立麻生総合高等学校 商業科教諭 岩村 夏樹

知るぽると
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2013

1. 金融教育教材としての“アベノミクス”

(1) “アベノミクス”を金融教育の題材に

2012年末、経済が一斉に駆け足で動き出した。政権交代の後に総理大臣となった安倍首相の経済への考え方である“アベノミクス”が話題となり、各方面に期待が高まったためだ。現状のデフレ、不況の状態に対して金融緩和を第一歩として打開策を見出していこうとする“アベノミクス”は基本的な経済の仕組みを利用した実践提案であり、高校生が学ぶべき大胆かつ前向きな考え方であることから、授業に導入すれば金融教育の大きな柱にできると私は考えた。

“アベノミクス”を構成するのは金融緩和、財政政策、成長戦略のいわゆる「三本の矢」であるが、これらは第一の矢である「金融緩和」がまず根底に有り、そこから公共投資などの政府支出を増やし、民間投資を刺激し、企業成長を促すものであると理解している。それぞれの矢は独立したものでなく、順序立って絡み合う政策であるので、私は「三本の矢」すべてを広い意味での「お金の流れ」を出発点とするものとして捉え、アベノミクス全体を金融教育の中に位置づけることにした。学習教材への導入のため2012年末より研究を開始、指導計画書①（資料1）のような数回に及ぶ学習計画を作り、資料3のような教育モデルとして図示した企画立案を行った。本報告書は実際に行った麻生総合高校での授業と公開講座についてその実践と工夫を報告するものである。

<指導計画立案から授業実践まで>

- 手順① 単元指導案作成 **指導計画書①** 各部署へ起案・回覧・情報共有
 手順② 授業指導案 **指導計画書②** 作成、評価と観点の決定
 手順③ 学習指導要領との整合性確認 教科書、資料集の確認
 手順④ 授業実践（授業後 振り返り）

(2) “アベノミクス”の教育効果

アベノミクスのような最新の社会事象を授業で扱う際に気を付けるべきことは、その内容が単なる事例解説のセミナーでなく“授業としてふさわしいものになるのかどうか”という点である。題材そのもの、またそれによる授業実践の教育効果について整理し、指導の道筋を立てていくのがいつもの順序である。

<アベノミクスを教材とする教育効果>

- ① “お金の動き”を発想の出発点としており、話題を広げやすい。
 ② 「三本の矢」として考え方が分割されており、授業として構成しやすい。
 ③ 現実のイベントを追いながら理論と実践を同時に理解していくことができる。

発案当初考えていた教育効果は以上の3点である。重要なことは、今まで教科書に掲載はあるものの、身近なものとして感じることはなかったデフレ脱却のための金融政策を実際の事例を通じて理解していくことができるという点である。

2. 実践報告：“アベノミクス”で学ぶ日本経済

(1) ビジネス基礎での実践と指導上の工夫

選択科目「ビジネス基礎」では常に最新の事例を解説してから教科書に還るという授業展開を心掛けているため、アベノミクスの授業への導入は生徒に予想されていた。受講している20人は新聞やテレビなどで様々な知識を仕入れ、知りたいことを明確にしたうえで毎回の授業に臨んでいた。

<指導上の工夫>（ビジネス基礎の場合）

- ① 指導内容の吟味：何を伝え、何を伝えないか、どうまとめるか
 ② リハーサルと板書計画の徹底：無人教室リハと“消さない黒板”
 ③ 発問対話型による授業展開と観点別評価：“付箋メソッド”

「三本の矢」はそれぞれ内容が豊富である。一つの政策だけでいくつもの考え方を伝えることができる。私は生徒に「何を伝え」、「何を伝えず」に、どうまとめるか、資料 3 を参考に毎回思索した。また、学習指導要領を必要以上に逸脱しないということも重要だ。難解すぎる部分をすべて理解させる必要はなく、基礎事項の了解にとどめるべき部分との色分けに気を配った。より深い知識や理解は授業を聞いたあとの自主学習で十分と判断したからだ。

(2) 指導計画とリハーサル

最新の事例を授業の時間を使って解説するわけなので、単なる知識提供に終始せず、今後の物の見方や考え方に影響を与えるような指導を心掛けた。私はこちらの授業手順によって生徒の頭がどのように動くかを想定し、生じる疑問に先回りする展開を準備した。以下、50 分間の一例である。「①今の問題点」から出発して「④政策の仕組み」までを 1 時間で教える。【疑問】～【知識への欲求】が生徒の頭の動き方として想定する部分である。

＜生徒の頭の動きに合わせた指導方法の一例＞

①今の問題点	②解決の糸口	③アベノミクス	④政策の仕組み
不況・デフレ	金融緩和	異次元緩和	日銀の役割
【疑問】 今ってどんなことが問題なのかな？	【思考】 解決にはどんな手段があるかな？	【知識・理解】 具体的に何をするのか？	【知識への欲求】 政策の仕組みを理解したいな。

想定通り行くかどうかをシミュレートするために授業の前日には一度予行練習をする。無人の教室で黒板に向かい実際に授業をする。生徒の反応を想定し、発問を考える。時事問題の授業は今だけの 1 回勝負である。無駄にできる時間は 1 秒もなく、綿密なリハーサルが欠かせない。ここまでの準備をしないと、とても生徒の前には立てない。公開講座などの一般の方の前ではなおさらだ。

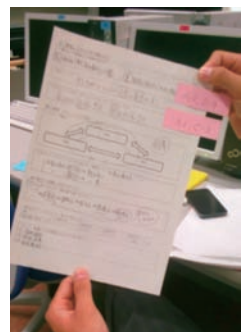
(3) 板書計画 “消さない黒板”

リハーサルの際に一緒に行うのが板書計画である。“黒板と相談する”と私はよく生徒に話す。指導計画書②（資料 2）の 6 に示すような板書計画を必ず練る。50 分の授業中は黒板を絶対に消さない。黒板全体を 4 分割し、あらかじめ何をどこに、いつ書くか、すべてを決めておく。アベノミクスのように、課題と対応策が分かりやすい事例は、横に論理が流れる板書が効果的だ。計画された板書は生徒に安心感を与え学習効果も増していく。当然のことながら授業と公開講座では全く別の黒板を準備する。受講する生徒が違うからだ。「あのクラスの生徒はこの部分で絶対に疑問に思うだろうな」など、相手に合わせて指導の筋道を変える。出来上がると資料 4 のようになる。矢印を多用し、「どうすると、どうなるのか」という筋道が整理された板書を常に目指している。

(4) 発問からの観点別評価

授業で導入するからには、生徒に対する評価基準と方法が必要となる。アベノミクスについては見方や考え方が様々な立場から可能であり、政策への賛否も人それぞれ、正答が一つと決まらないという点で観点別評価に適している。私は授業では発問を多用し、生徒の発言をその場で評価し、得点を記した「付箋」を配る、名づけて“付箋メソッド”を行っている。

基本的な仕組みがわかりやすいアベノミクスはこのような発問型授業には格好の題材だ。例えば「デフレ脱却の糸口は何があるかな」という問いかけに対して「みんなが物を買うようになればいいのでは?」「みんなの給料が上がれば、物価も上がるのでは?」など様々な意見が飛び交い、自然に処方箋として「企業活動の活発化」とそれを可能とする「金融の役割」つまり第一の矢の意義に気付いていく。生徒たちは授業終了後、学習プリントに付与された付箋を貼り付けて提出し、私は成績に計上する。評価基準などは指導計画書②（資料 2）の 5 参照。どんな発言も減点は行わず、すべて加点法。発言は必ず褒める。



(5) 県立学校公開講座

夏休み明けの 9 月、授業で扱っている内容を地域や一般の方に聞いていただいている趣旨から「県立学校

公開講座“アベノミクスで学ぶ日本経済”として開講される運びとなった（告知に用いたのが資料5）。神奈川新聞に記事としても扱っていただけた。もともと発案したのは私であり、来年度開講を目指していた講座だが、「今やってはどうか」と管理職から助言を受けた。神奈川県教育委員会の生涯学習課の皆様のご助力をいただきながら開講にこぎつけた。指導は土曜日の午前中 2 時間半を使い、4 回セット。授業内容・指導の工夫などはビジネス基礎の指導と同様だ。ありがたいことに一般の方 6 名と他校を含めた有志の高校生 5 名の参加をいただいた。五輪開催決定など最新のニュースなども盛り込みながら楽しく展開できている（資料 6・7）。受講する大学生の中には他校で私の授業を受けていた生徒もあり、最新の事例を題材に新仮説を生み出せないかと意欲的に受講してくれている。

3. 実践の振り返り：提言の主役は“生徒”へ

（1）高等学校学習指導要領範囲内の“アベノミクス”

実践を通じ、高等学校での指導内容としてアベノミクスは教育効果が大きく、幅広い知識理解が可能となる事例であると考えた。金融緩和も財政政策も、その仕組みはビジネス基礎、あるいは政治経済の指導要領の範囲で十分に説明可能だ。政府・日銀の共同声明、異次元緩和や増税のニュースなどは金融分野の授業展開に格好の事例を提供してくれる。日銀が銀行の国債を購入することで金利を下げる価格決定理論は新科目「ビジネス経済」が既に守備範囲だ。商業・公民に限らず様々な教科で指導が可能であり、実践事例は多彩なものとなる。

（2）教員としての“客観的視座”

アベノミクスについては賛否を主張する書籍が数多い。私は高校教諭という立場から、賛成意見も反対意見も情報収集した上で、あくまで客観的に授業で提供しよう心がけた。また、たとえば脱却を狙う“デフレ”については、物価下落が不況を招くという反面、コスト削減を追求した日本企業の努力の結果として生じたものであることも生徒には伝えた。公共投資でなく社会福祉に焦点を当てていた過去の政策の考え方そのものが間違っていたわけではないことも伝えた。生徒には様々な角度から物事を眺め、思考を深めて欲しいからだ。

（3）生徒だって提案“私たちのアベノミクス”

今回うれしい動きが最後にあった。公開講座を自主的に受講した生徒たちが、今度は自分たちが報告書をまとめ提言したいと言い出した。彼らは第 3 の矢「成長戦略」の一つである「女性の社会進出」について、女性起業者を対象とした特典付きのクラウドファンディングを企画できないかと思案中である。経済へのかかわり方を金融の仕組みを足がかりに考え、提言しようとする取り組みを今後も支援したい。アベノミクスによる政策が実践され、その主役となって日本を引っ張っていくのは間違いなく生徒たちだ。生徒たちがこれほど興味を持った金融事例を私は知らない。金融を中心とした最新の経済事例を授業で分かりやすく提供していくことが、教員という立場から日本経済に貢献する手段であると改めて感じた。

以上を実践報告とする。

資料 1 指導計画書①：学習単元指導案【アベノミクス】

【指導内容】 アベノミクスで学ぶ日本経済

【適用授業】 ビジネス基礎

【受講生徒】 選択受講生（20 人：2 年生、3 年生）

【指導意図】

最新の経済政策である“アベノミクス”を題材とすることで、金融の仕組みの基本から出発する経済再生の考え方に触れ、事例を眺めて政策を評価していく感性を磨くことができる。また、公共投資の方法や成長産業への規制緩和など今後日本が重視していく分野について学ぶことで、自らの職業観をより実践的かつ具体的にしていけることができる。

◎「三本の矢」の学習内容

①第 1 の矢：金融緩和 → 中央銀行の機能、金融政策の意味、金利の決め方

②第 2 の矢：財政政策 → 公共投資の意味、税金の使い道、民主党との違い

③第 3 の矢：成長戦略 → 経済特区、成長産業とはなにか

【指導手順】

ビジネス基礎（2 時間連続・選択授業）を 4 回使って指導を行う。

内容については指導デザインに従うが時間の増減、指導内容の変更もありうる。

評価については授業への参加度（発言）、終了時のレポートで行う。

【指導デザイン】

日	1 時間目	2 時間目
1 日目	アベノミクス概要	第 1 の矢
2 日目	第 1 の矢 金融緩和	日本銀行の役割とは
3 日目	第 2 の矢 財政政策	国債発行と使用方法
4 日目	第 3 の矢 成長戦略	アベノミクスへの評価

これは私のオリジナルの指導案である。新しい経済事象などを複数回にわたって指導したいと提案する際に本指導案を事前に作成し、他の先生に目を通してもらい、導入の是非、また指導の際のアドバイスなどをいただくことを目的としている。複数教員による教科指導の場合もあるため、このような形で指導方針を明確化しておくことで、情報共有を図ることもできる。最新の経済事例を扱う場合が多いため、あくまで大枠で作成し、場合によって加除訂正、方向転換を図る。今まで金融にかかわる分野でこのような指導案を作成したのは「サブプライムとは何か」「リーマンショック」「フジテレビとライブドア」など。

資料2 指導計画書②：学習指導案（指導の流れ）

麻生総合高等学校 商業科 岩村 夏樹

- 1 担当教科（科目） 商業「ビジネス基礎」
- 2 担当クラス・使用教室 選択教室
- 3 本時の指導内容：「アベノミクス」とは何か
- 4 展開

*本学習指導案は授業公開を目的として作成したものである。麻生総合高校では商業科の教員は自分一人であるが、社会科の教員を中心に本事例に興味を持っていただく方が多いため、毎時間を公開としている。

	学習内容	内容詳細	指導上の留意点
導入 (5分)	出席確認 「アベノミクス☆クイズ」	アベノミクス☆クイズ ①現在の総理大臣の名前は？ ②アベノミクスって聞いたことありますか？ ③アベノミクスについて知ってることは？	生徒がテレビで聞いたことのある最新の事例を示し、生徒の興味を引く。アベノミクスは安倍首相の考え方である点を確認。
展開 (40分)	アベノミクス概論 ・三本の矢 ・キーワード	“三本の矢” ①第一の矢 金融緩和 ②第二の矢 財政政策 ③第三の矢 成長戦略	それぞれの政策の大枠を共有し、日本経済の現状をどう考え、そのためにどのような手段をとろうとしているのか発問形式で理解させる。 ニュースでは不景気というけれど、みんなは日常生活で感じますか？などの発問から様々な角度からの回答を誘発し、複眼的に現状をとらえる感性を養う。
	①日本経済の現状 日本の景気は良い 悪い？ ②アベノミクスでの日本の景気の考え方	①「日本経済は良い？悪い？」 新聞、ニュースの記事だけでなく学生はどう判断するのか？ 景気の良しあしの判断基準 ②アベノミクスの“景気” 景気＝お金の流れ 速くて多ければ好景気	
まとめ (5分)	なぜアベノミクスが“ウケた”のか	<u>アベノミクスが浸透した理由</u> 具体的な数値目標 前向きな政策であった 期待が先行し株価が上がった、など	何故みんなはアベノミクスに興味を持ったの？という発問ではじめ、アベノミクスが分かりやすく前向きな考え方である点を指摘。

1時間目はこれで終了となるが、基本的に2時間続きのため、この後不況の原因であるデフレの説明に入る。1時間目の段階でデフレという言葉を意図的に何度か使い、次の時間への頭の準備をさせておく。

5 評価の観点

- 関心意欲：内容に興味を示し、発言形式の授業に参加する意欲を見せているか。
- 思考判断：教師の発問に適切に反応し、考察できているか。
- 技能表現：発問への解答表現、またレポートでの表現が正確であるか。
- 知識理解：解答した知識、レポートにまとめた知識が正確であるか。

<発問回答への具体的評価方法>上記4 観点の分類による
 評価① 質問に対し適切な解答：「思考判断」「知識理解」の評価
 評価② 議論を前進させる視点：「思考判断」「技能表現」の評価
 評価③ 新たな視点：「意欲関心態度」「技能表現」の評価
 評価④ 的外れだがユニークな視点：「意欲関心態度」の評価

6 板書計画

アベノミクスで学ぶ日本経済		景気についての考え方 →人による アベノミクスの「景気」 お金の流れに注目 お金の流れが 速くて多い →好景気 遅くて少ない →不景気	なぜアベノミクスが 国民に受けたのか 身近な経済に焦点 具体的な数値目標 →期待値が高い！ < Key Word > 日本銀行、異次元緩和 緊急経済対策、2% 国土強靱化・・・
アベノミクスとは 安倍晋三+経済学 三本の矢： ①金融政策 ②財政政策 ③成長戦略	日本の景気は？ 良い？ 悪い？ →よくなりつつある？ 日本経済の問題点 現在はデフレの状況 ↑ アベノミクスの視点		

板書計画と指導上のポイント
 P. 3でも述べている通り、授業準備は板書計画を必ず行う。
 いつも黒板は4つに分割し、それぞれまとまるように記載し、
絶対に消さない。居眠りをしてしまった生徒が左から右に目を動かすと
 授業の内容が追えるように仕組む。情報は筋道が明確にわかるように、
 記述する言葉も厳選する。補足内容などは可能な限り生徒に教え、
 同じ時間における学習効果を高める工夫をする。

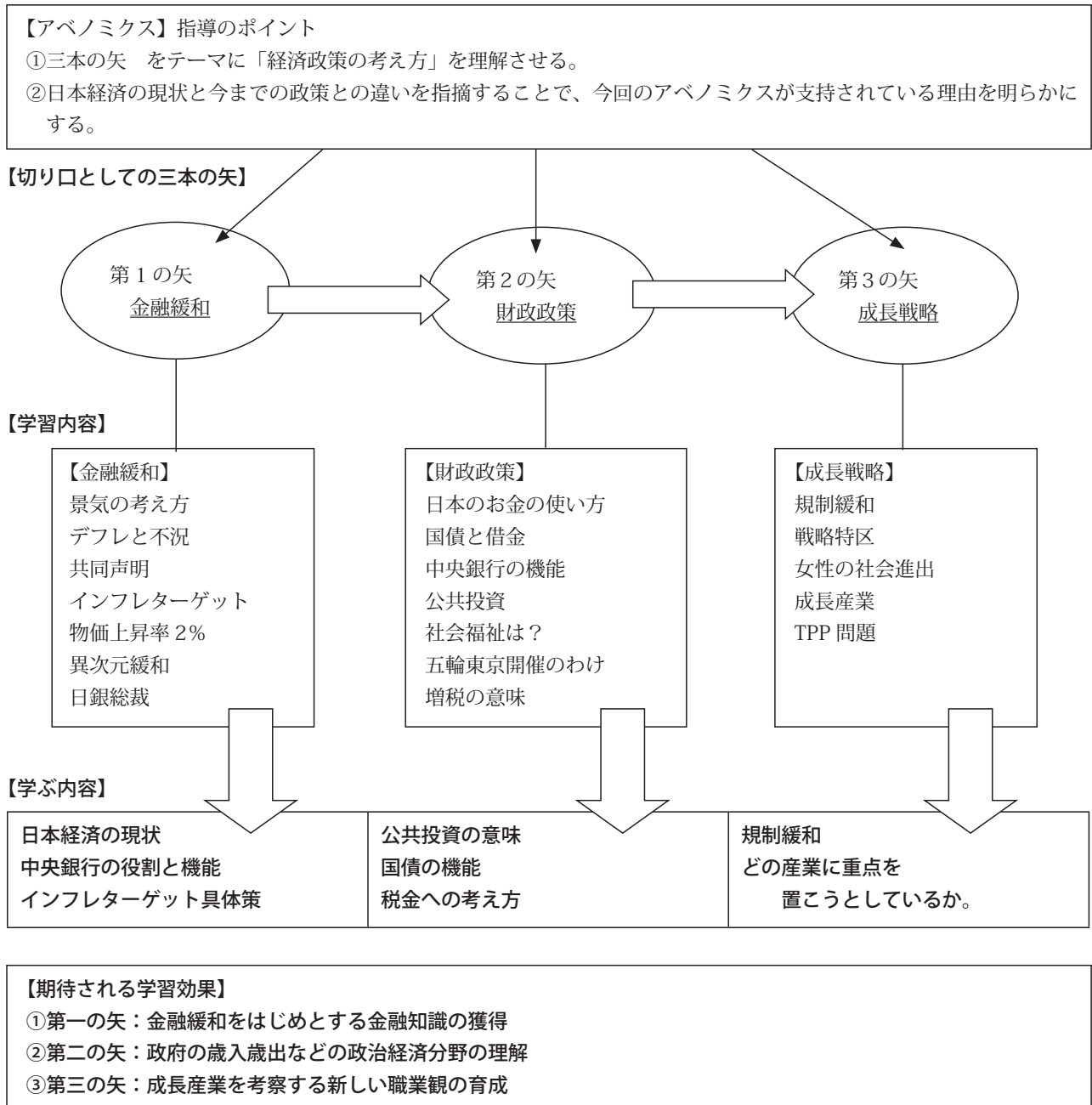
【本時の指導メモ】

- ①アベノミクスは政策というよりも「考え方」であるという点を強調しよう。
- ②景気の「良い」「悪い」はできるだけ全員に理由付きで生徒に聞こう。
- ③景気に関する考え方、「お金の流れ方」をイメージしやすく指導しよう。
- ④できれば1時間でキーワードまで進み、受講生の頭を整理しよう。

【本時の指導メモ】は“自分への手紙”である。指導計画作成と授業実施に時間的な隔たりがある場合も多いので、思うことなどをメモしておき、当日に生かす。

資料3 アベノミクスで学ぶ日本経済：学習効果モデル

(*アベノミクスを授業で扱う際、自らへの羅針盤として作成)



資料 4 50 分間 “消さない黒板”



授業準備に黒板計画は必要不可欠。黒板を4つのパートに分け、何を話し、何を書くか、計画を練る（「黒板と相談」）。写真は実際に授業を終えたあとの黒板。授業前日には一度無人の教室でリハーサルも行う（P. 3 参照）。

資料 5 県立学校公開講座告知

☆県立学校公開講座☆ “アベノミクスで学ぶ日本経済” 受講生募集！！

予備知識は一切不要です。アベノミクスの“3本の矢”を手掛かりに
今、日本の経済はどうなっていて、この先どうなりそうなのか
アベノミクス賛成論、反対論はそれぞれどんな主張なのか
投資ゲームを織り交ぜて 楽しみながら 一緒に考える講座です。

この秋、麻生総合高校で **経済** を学んでみませんか？

名称	【県立学校公開講座】 アベノミクスで学ぶ日本経済
内容	<p>講座内容：アベノミクスの号令のもと回復基調にある日本経済は今後どういった方向へ向かうのか。経済そのものの仕組みを「3本の矢」をキーワードに解説し、投資ゲームを織り交ぜながら、全員で議論する講座です。</p> <p>開催期間：</p> <p>① 9月14日（土） 9:30～12:00 アベノミクスで眺める日本経済</p> <p>② 9月21日（土） 9:30～12:00 第1の矢 金融政策</p> <p>③ 9月28日（土） 9:30～12:00 第2の矢 財政政策</p> <p>④ 10月5日（土） 9:30～12:00 第3の矢 成長戦略</p> <p>実施場所：麻生総合高等学校</p> <p>定員：20名</p>
申込方法	往復はがき
料金	1,500円（高校生以下の方、または、障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は免除）

資料6 指導風景（公開講座より）



授業は教室とパソコン室を利用して行いました。パソコン室ではオリジナルの株式投資シミュレーションで株価を追いかけてみました。

資料7 受講生アンケート・感想

一般受講生より

- ・アベノミクスの政策の中身だけでなく、その背景や理由について具体的に学ぶことができた。
- ・新聞やテレビでアベノミクスのニュースを聞き、少し理解できるようになった。
- ・同じ女性に対してどのような規制緩和の政策がとられていくのか注目したい。

高校生より

- ・家に帰ってアベノミクスの話を親にしたら、喜ばれた。
- ・大学生になったら反対意見もしっかり学んで、自分の考え方を持てみたい。
- ・気持ちとしては反対する部分もあるけど、政策としてうまく行ってほしい。